

平成二十九年 入学試験問題

国語

第一回

【注 意】

- ・試験時間は五〇分です。（八時五〇分～九時四〇分）
- ・問題は一ページから六ページまでです。
- ・解答はすべて解答用紙の解答らんに記入してください。
- ・字数制限のない問題について、一行分の解答らんに二行以上解答してはいけません。
- ・解答用紙に受験番号、氏名を記入してください。



洗足学園中学校

① 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

私たちが人間は、万物の霊長と言われる。そのせいか、人間を基準にして、他の生物の生き方を見てしまいがちである。そして、人間に近い生き物を「高度な生き物」として大切にしたり、人間とあまりに違う生き方をしてる生き物を「下等な生き物」としてさげすんだりしてしまうのだ。

A、すべての生物が、この世の中を生き抜くように、高度な進化を遂げている。

たとえば、人間にとって脳は一つしかないものと決まっているが、昆虫は一つではなく、複数の脳を持っている。そして、その脳をそれぞれの足の付け根に、ハイチしているのである。

そのため、昆虫は刺激を受けると、すぐに行動に移ることができる。ゴキブリを叩こうとスリッパを振り上げると、ゴキブリはその空気の振動を察知して、すぐに逃げ出すことができる。

人間のように感覚キカンで得たすべての情報を、脳という高度に発達した情報システムに集めて、判断する方法も、一つの進化の例に過ぎない。もし、ゴキブリが人間と同じように高度な脳を発達させて、危機が迫っているのか否か、逃げるべきか逃げざるべきかと、熟考していたら、簡単にスリッパにつぶされてしまうことだろう。

あるいは、ミツバチは人間には見えない紫外線を見ることができ。どうして見えるのかと問えば、人間はどうしてこの色が見えないのかとミツバチに聞かれるだろう。コウモリは人間には聞こえない超音波を聞くことができる。超音波が聞こえるとはどのような感覚なのかと問えば、超音波が聞こえない世界はどのようなものなのかと質問されるだろう。

何も人間の生き方が当たり前ということではない。むしろ、生き物たちに言わせれば、ヨケイなことに頭ばかり使っている人間のような生き方こそが珍しいかも知れないのである。

古代ギリシアの哲学者アリストテレスは、自然界には階層があり、無機物の上に植物があり、植物の上に動物があり、動物の上に人間があると考えた。B、生物の世界では最下層に植物があり、チヨウテンに人間があるとしたのである。

仏教の世界では、殺生を禁じているので、動物の肉を食べることは禁止されている。ただし、肉食を禁止されているはずの仏僧も、米や野菜は食

30

25

20

15

10

5

べていた。C、植物も食べることまで、禁忌とされれば、もはや人間は生きていくことはできないが、米や野菜の命を奪うことは殺生とは見なされなかったのである。

植物も、命ある生物である。

すべての生物は自然界を生き抜くために、さまざまな進化を遂げ、高度な仕組みを発達させている。それは植物も同じである。

植物はただ、なんとなく生えているように思えるかも知れないが、植物も厳しい環境を生き抜くために、高度な仕組みを発達させている。植物は、何とも(3) 的で穏やかな暮らしをしているように見えるかも知れないが、植物も日々、厳しい生存競争にさらされている。群雄割拠な植物たちがひしめきあって光を奪い合い、生存空間を奪い合う競争の厳しさは、現代人の競争社会の比ではない。

植物にとつても、生きていくということは、とても大変なことなのだ。

D、今を生き抜いている植物は、すべて生存競争を勝ち抜いてきたものばかりだ。そうだとすれば、何気なく生えている植物の暮らしにも、厳しい環境を生き抜き、競争を勝ち抜き、さまざまな生きる工夫や仕組みがあるはずなのである。(中略)

日本には四七の都道府県があるが、地面の上で人間が決めたものである。富士山のすそ野は、どこまでも広がっている。一体、どこまでが富士山なのだろうか。明確な境界があるわけではないから、日本全体が富士山とも言えるし、富士山と言う実体などないのだとも言える。

本当は、自然界にあるものに一切の境はない。境目というのは、分類し、理解をするために人間が勝手に定めたに過ぎないのである。

野菜と呼ばれる植物があるが、スイカやイチゴが野菜になるか、果物になるかは、国によって異なる。アメリカではトマトが野菜か果物かでサイ

パンが行われたくらいだ。野菜という明確なグループが存在するわけではなく、人間が野菜という範囲を決めているに過ぎないのだ。イルカとクジラは、単に大きさが三メートルよりも小さい種類をイルカ、三メートルよりも大きい種類をクジラと呼んでいる。生物学的にイルカとクジラの明確な違いがあるわけではないが、人間が勝手に線引きをしているのである。このような人間が勝手に定義つけて分類しているものを「人為的分類」という。

60

55

50

45

40

35

しかし、イルカとタンポポは、明らかに違う。このように、自然界にあるように見える分類を「系統分類」という。

自然界には知られているだけで二〇〇万種もの生物がいる。この無数に
いる生物を、「分類学の父」と呼ばれる一八世紀の博物学者リンネは、まず
線を引いて、植物界と動物界の二つに分けた。これを二界説という。ところ
ろが、やがて微生物がたくさん見つかってくると、原生生物を加えて三界
説が唱えられた。

生物の世界を、どのように区分すべきか。驚くことに科学技術が進んだ
現代においても、⁽⁴⁾その分類方法が確定しているわけではない。

しかし、それもやむを得ない話である。東北と九州が明らかに違っても、
日本列島には何の境界線も引かれていないように、イルカとタンポポが明
らかに違っても、生物の世界にも明確な境界があるわけではない。

自然界は何の境界もない。★ポーターレスの世界である。しかし、知能で情
報を整理する人間は、境界を作って区別しないと理解できないので、線を
引いているのである。系統分類とはいっても、⁽⁵⁾所詮は、人間が自分たち
のために作った分類に過ぎない。

イルカは哺乳類らしくしなければならぬというルールはないし、将来
にわたってどのように進化するかはまったくの自由である。動物と植物は
まったく別の生き物のようだが、たまたま動物に進化したり、植物に進化
したりしたただけのことで、そもそも生物としての基本的なことはあまり
違ってないのかも知れない。植物と動物の特徴を併せ持つミドリムシは
奇妙な生物と言われているが、人間の決めたルールに合わないというだけ
で、⁽⁵⁾ミドリムシにとってはそれが当たり前前の進化だったのだ。

(稲垣榮洋『植物はなぜ動かないのか』)

★禁忌……禁止したり避けたりすること。

★群雄割拠……力のある者たちがばらばらに存在して、お互いに勢力を張
り対立すること。

★ポーターレス……境目が無いこと。

★所詮は……結局は。

問一——(1)「高度な進化」とありますが、これはどのようなことですか。

解答らんに行以内で説明しなさい。

問二

——(2)「アリストテレス」と、仏教の考え方を比較して述べた次の文
のうち、正しいものをア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア アリストテレスも仏教も植物を動物より劣ったものとして考えて
おり、それによって植物がただ何気なく生きていると人々に考え
させるようになった。

イ アリストテレスの考え方は仏教よりも自然界に対して厳密な区分
をしており、植物をもっとも進化の遅れた生物だと考えている。

ウ 仏教の考え方はアリストテレスが区分した自然界の階層の考え方
にしたがったもので、殺生の禁止の範囲の中に植物を加えること
がなかった。

エ アリストテレスの考えた自然界の階層も仏教の殺生に対する考え
方も植物を動物とは別の生物であると考えている点においては共
通している。

問三

——(3)に当てはまる語を次のア～エの中から一つ選び、記号で答え
なさい。

ア 社会 イ 独創 ウ 平和 エ 人間

問四

——(4)「その分類方法が確定しているわけではない。」とありますが、
「区分」の仕方が何通りもあるのはなぜですか。解答らんに行以内で
説明しなさい。

問五

——(5)「ミドリムシにとってはそれが当たり前前の進化だったのだ。」と
ありますが、なぜそのように言えるのですか。解答らんに行以内で
説明しなさい。

問六

——A B C D に当てはまる語を次のア～エの中から一つずつ選
び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用しま
す。)

ア そして イ つまり ウ もちろん エ しかし

問七

——(ア)～(オ)のカタカナを漢字に書き直しなさい。

問八

本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 古代ギリシアの哲学者アリストテレスが自然界に階層があると考えたことよって、人間の植物に対する考え方はかたより、食べてもよいものだと考えられるようになってしまった。

イ 人間は万物の霊長といわれるが、他の生き物のことを人間と同じ基準で考えてしまうと、それぞれの生き物がどうしていまの形になったのかを冷静に考えることができなくなる。

ウ 植物も実は人間と同様に命のある生き物なのであり、生きるために様々な工夫や仕組みをつくり出してきたことに人間は気づいて、もっと植物を尊敬しなくてはならない。

エ イルカとクジラの違いは人間が勝手につけたものであり、その意味ではイルカとタンポポの違いも人間の目から見た線引きであつて、植物と動物を分類すること自体が無意味である。

② 次の文章を読んで後の問いに答えなさい。

鉄棒の特訓は、近所の『ちびっこ広場』で放課後にやることにした。私が一緒にやろうと言う前から、うみか毎日ここで練習していたらしい。

毛利さんが宇宙に行くのは九月。スペースシャトルエンデバーの名前をテレビでも少し前から紹介してる。

「そんなに楽しみなの？」

「楽しみ」

別に意地悪で聞いたわけじゃなかったけど、うみかの返答は短かった。

鉄棒を両手で握り、えいっと空に向けて蹴り上げたうみかの足が、重力に負けたようにばたん、と下に落ちる。

「足、持ってあげようか」

私が逆上がりができたのは一年生の時だ。その時、先生やお父さんが、練習する私の足を捕まえて回してくれた。

「重いよ」

「大丈夫だよ」

(1) 請け合いましたけど、うみかがえいっと足を蹴り上げたらかかなり迫力があった。捕まえそこねて、さらにもう一回。思いきって手を伸ばしたらうみかの靴の先が額を掠めた。

「いたっ」

「あ、ごめん」

ぶつかった場所を押さえて蹲った私に、うみかが近寄る。「だから言ったの」と。

「いいよ。私、自分で回れるようになるから」

「私はいなくてもいいってこと？」

じんじん痛む額を押さえながら見たうみかの顔が、表情をなくした。おや、と思う間もなく、うみかが首を振る。

「ううん。いて欲しい」

今度は私が表情をなくす番だった。そんなふうになま直に言われたら、逆らえなかった。

「——見てれば、いいの？」

「うん。お願い」

A 頷いて、それから何度も何度も、空に向けて足を蹴る。

30

25

20

15

10

5

「エンデバーってどういう意味か知ってる？」

何度目かの失敗の後で、うみかが息を切らして言った。手のひらが赤茶色になって、見ているだけで鉄の匂いがかけそうだ。

私は「知らない」と首を振った。

「努力」とうみかが答えた。

空に B 藍色が降りてきて、薄い色の月が見え始めてしばらくした頃、うみかがとうとう練習をやめた。妹が鉄棒を離れたのと入れ違いに、今度は私が逆上がりをする。

足を上げる時、つま先の向こうに白い月が見えた。今日、うみかは何度も何度もこうやって、私と同じように、月を蹴ってたんだなあと考えた。

逆上がりを成功させて、すっとと地面に降りた私に向け、うみかが「いいなあ」と呟いた。

「思いっきり走ってきて、その弾みの力を借りるって手もあるよ」

自分が最初の頃、そうやって初めて回れたことを思い出す。こんなふうにな、とお手本で回って見せた。二、三メートル離れた場所から走り、その勢いで鉄棒を掴む。月を蹴り、 C 回る。

「こう？」

うみかが真似して、同じように走る。ぎこちない走り方だったけど、そのまま鉄棒を掴んだら、これまでで一番勢いよく足が上がった。あと少しできれいな円が描けそうだった。

「惜しいっ！」

思わず声が出た。うみか自身、驚いた顔をしていた。

「まだ、練習してもいい？」

「このやり方で、明日からもやってみなよ。今日はもう遅いよ」
家に帰ると、もう七時を回っていて、私たちは、おじいちゃんとお母さんに叱られた。お父さんがまだ帰ってきてなくて、よかった。

「明日も練習、一緒に来てくれる？」

うみかとひさしぶりにお風呂に一緒に入った。鉄棒を掴みすぎたせいで感覚がおかしいのか、うみかが何度も手をグーとパーに動かしている。

「いいよ」と私は答えた。

誰かが何かできるようになる瞬間に立ち会うのが、こんなに楽しいとは思わなかった。

翌日が、『りぼん』と『なかよし』の発売日だったことを、私はすっかり忘

60

55

50

45

40

35

れていた。ミーナが「うち来るでしょ？」と聞く声に「D」した。毎月、発売日の放課後にミーナとコンビ二に一冊ずつそれぞれ買いに行つて、どちらかの家で一緒に読むのが、いつの間にかルールみたいになっていた。

その二冊読んださに私たちの仲間に入りたがっている子は他にもいる。でも、ミーナは「はるかばは親友だから」と、私だけを誘つてくれる。

「行く！」

「親友」のミーナの誘いを断つたら、ミーナは次から早苗ちゃんとか、誰か別の子を誘うようになってしまふかもしれない。もう、次から私を呼んでくれなくなるかもしれない。

うみかと鉄棒のことが頭を掠めたけど、練習はどうせ明日もあさつてもするだろう。今日の放課後に付き合えなくなったことを伝えるため五年の教室に寄ると、うみかはすでに帰ってしまった後だった。

どうしようか迷つたけど、すぐに、まあいいか、と考え直す。学校を出る時、「おでこ、どうしたの？」と、ミーナに聞かれた。

「朝から気になってたけど、ちょっと赤いね」

「あ、本当？ 気がつかなかった。——ね、『りぼん』って、今月ふろく何だっけ？」

妹の鉄棒練習に付き合つてたなんて話したら、ミーナはきつと私を「優しい」って言うだろう。「妹と仲がいいんだね」って言うだろう。

そう思つたら、何も話したくなかつた。

ミーナは一人っ子だからわかんないかもしれない。だけど、私は嫌だった。いいお姉ちゃんだなんて思われるのは、なんだか違う。もう六年と五年なのに、妹の練習に付き合つてるのも、かっこ悪く思えた。

ミーナの家を後にしたのは六時過ぎだった。

家と田んぼと畑、舗装されたアスファルトの道と砂利道が★ランダムに続くいつもの帰り道を自転車で通っている時、こんな時間になつてもまだ鳴く(3)蟬の声を聞いて、ああ、夏休みが来るんだなあと思つた。田んぼに、背が高くなった稲のまっすぐな影がさわさわ揺れている。蛙の鳴き声が聞こえた。

『ちびっこ広場』に、もううみかはいないだろうと思つたけど、帰り道だから一応寄つた。

広場を囲んだ灰色のフェンス越しに見える鉄棒の付近に人影はなくて、私はそれを確認したら(4)ほっとしたような、残念なような気持ちになつた。

95

90

85

80

75

70

65

自転車を停めて家の中に入ると、「ただいま」を言う間もなく、おじいちゃんとおばあちゃんから「どこに行つた」と問いつめられた。剣幕に圧倒されて、私はうまく答えられないで、ただ二人の顔を見つめ返す。

お母さんがいなかった。

何かがおかしいことに気づいて、私は台所の方向を見つめる。この時間いつもしているご飯の匂いがしない。台所の電気が消えていた。

——うみかが怪我をして、右腕を折つて、病院にいたこと。

お母さんは、そっちに行つて、うみかはひよつとしたらこのまま入院するかもしれないこと。

おばあちゃんたちが説明する声を、私はぼんやりと聞いた。(5)貝殻を当てて音を聞くように、遠く聞こえる声だった。

うみかは、鉄棒から落ちたのだと言う。

(辻村深月『1992年の秋空』)

★ランダムに……どこどころに

問一

(1) に入れるのに最もふさわしい言葉を自分で考え、漢字一字で答えなさい。

問二

(2) 「私が表情をなくす番だった。」とありますが、このときの私の心情を解答らんに二行以内で説明しなさい。

問三

(3) 「蟬」とありますが、「虫」を使った次の一〜五のことわざ・慣用句の意味を、後の「意味」ア〜オの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。

一 虫の知らせ 二 くもの子を散らすよう

三 はちの巣をつついたよう 四 たで食う虫も好き好き

五 泣きつ面にはち

【意味】

ア 大勢の者が四方にばつと逃げるようす。

イ 悪いことで弱っている上に、さらに悪いことが重なること。

ウ 人は好みが多々であるようす。

エ なんとなく悪いことがおこりそうな予感がすること。

オ 急に大さわぎになるようす。

105

100

問四 — (4) 「ほっとしたような、残念なような気持ちになった。」とありますが、このときの私の心情を解答らんに三行以内で説明しなさい。

問五 — (5) 「貝殻(かいがら)を当てて音を聞くように、遠く聞こえる声だった。」とありますが、このときの私の心情を解答らんに二行以内で説明しなさい。

問六 次の一文を文章の適切な部分に戻し、直後の五字を答えなさい。(読点や記号も字数に数えること。)

漫画(まんが)が読みたいのはもちろんだったけど、すぐに返事をしたのは別の理由からだった。

問七 A 〽 D に入れるのにふさわしいものを次のア～エの中から一つずつ選び、記号で答えなさい。(ただし記号はそれぞれ一回ずつ使用します。)

- ア はっと
- イ こくりと
- ウ ぐるんと
- エ うっすらと

問八 本文の内容に合うものを次のア～エの中から一つ選び、記号で答えなさい。

ア 五年生になっても逆上がりができない妹に対して、私は本心ではあきれているが、妹に伝わらないように必死に練習に付き合っている。

イ 私は自分が逆上がりができるようになった当時のことを思い出しながら妹の練習を手伝うに連れて、充実感(じゆんかん)を得るようになってきている。

ウ 私は妹の練習に付き合っていることがミナナに知られるのは恥ずかしい思いもあるが、内心では妹との仲のよさに誇り(ほこ)を持っている。

エ 家に帰った際に台所の電気が消えていたことにすぐに気づいたため、私はお母さんがいないことや何か大変なことが起きていることを察した。

